



1975年5月、京都府高校総体1回戦、伏見工業高校（この頃、京都の不良が集まる学校であった）は、前年度全国準優勝の花園高校と対戦し、112対0で大敗した。今まで1度も必死に頑張ったことのない彼らは、試合後泣きながら「打倒、花園高校」を約束し、1年後の京都府高校総体大会で決勝まで進み、花園高校を18対12で破って初優勝した。試合後、花園高校の主将が、伏見工業の主将に「お前ら死ぬほど頑張ったんやな」と言った。その頃、高校2年生だった私は「死ぬ気で頑張る」とは、こういうことなんだと実感したものでした（映画化もされました）。

「人は人生の中で何度か頑張らなければいけない時がある。それは、【高校受験・大学受験・就職試験・結婚・子供の誕生】の時だ。」私が20代の頃、親友が言った言葉です。彼は目標をしっかりとって生きているのだと感心したのを思い出します。

あなたは、部活動でも勉強でもいいですが、必死に頑張った経験がありますか。脇目も振らず、一つのことに集中し、一心不乱にひたすら努力する経験です。普通に頑張ることはあっても、必死に頑張った経験となると、少ないのではないのでしょうか。必死に頑張るには、体力も精神力も必要ですから、早くから無理をせず、時間を掛けて、マイペースにこつこつ頑張るほうが長続きして良いと思います。

しかし、人生では、成り行きを決める勝負所があります。本当に大切な場面では、やはり必死に頑張っておく方がいい。人生で一度くらい、自分で決心して必死に頑張ることも、人生の貴重な経験だからです。必死に頑張った経験がある人となない人では、成長に差が出ます。やはり必死に頑張った経験のある人の方が、過酷な経験をしているだけあって、人間としての深みも違います。人生の後悔を減らすことにもつながります。後で思い出したとき、「二度と経験したくない」と思うかもしれませんが、「あのとき頑張っておいて良かった」と思えるはずです。

一度、大変なことを乗り越えた経験をインプットしておけば、どこかで大変なことにぶち当たった時も「あのときも頑張れたから今回も頑張れる。」と自信が持てるはずです。必死に頑張った卒業生が「仕事で大変なときがあっても、高校3年の時、休みなしで毎日勉強した経験が自信につながっています。」と言ってくれることがとてもうれしいです。

「大学入学共通テスト」受験する人は、本番まであと92日、解けなかった問題が解けるようになること、授業・宿題・定期考査・模試で手が出なかった問題を完答できるようになるまで、「復習」「復習」「復習」………することで力がつく。これができないと全国の生徒と戦えない。

お笑い芸人ティモンディ高岸宏行の「やればできる」は、愛媛県済美高校の校訓、「やれば成功する」のではなく「やればベストを尽くすことができる。挑戦こそ楽しい。」の意味だそうです。

真の目的「何のために勉強するのか、将来何のために仕事をするのか、誰のための人生なのか」を見失わず、絶対やってやるの「信念」をもって進んでほしいです。

月	日	曜	行事予定（3年に関するもののみ）	朝	夕	備考
10	17	土	ベネッセ駿台記述模試 7：30開始			
	18	日				
	19	月		○	○	7：25校門通過
	20	火		○	○	7：25校門通過
	21	水		○	×	7：25校門通過
	22	木		○	○	7：25校門通過
	23	金		○	○	7：25校門通過
	24	土	オープン模試 7：30開始			
	25	日				
	26	月	花植え(FT) 授業公開期間（11/6まで）	○	○	7：25校門通過
	27	火		○	○	7：25校門通過
	28	水	100周年準備生徒活動時間(FT)	○	×	7：25校門通過
	29	木	⑦避難訓練	○	○	7：25校門通過
	30	金	ベネッセ・駿台マーク模試（放課後）	○	×	7：25校門通過
	31	土	ベネッセ・駿台マーク模試 7：30開始			